

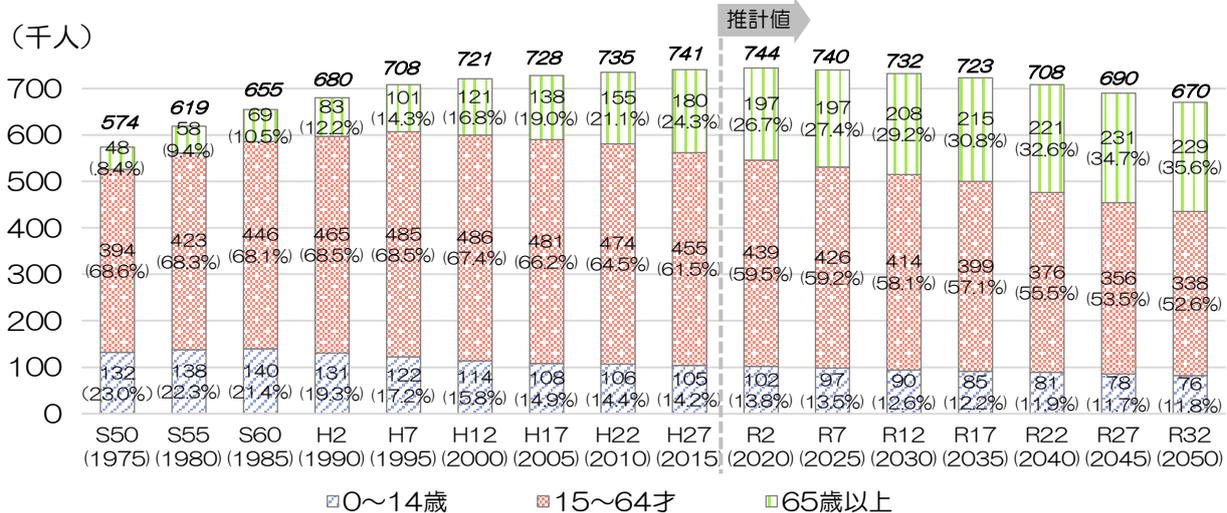
第3章 市のバリアフリーに関する現状と課題

3.1 市の概況

(1) 人口推移と将来推計

「熊本市人口ビジョン（令和2年3月）」では、本市の人口は、平成28年（2016年）以降減少に転じ、令和32年（2050年）には約67万人となることが予測されています。

一方、65歳以上人口は増加を続け、高齢化率が大幅に上昇していく見込みとなっています。

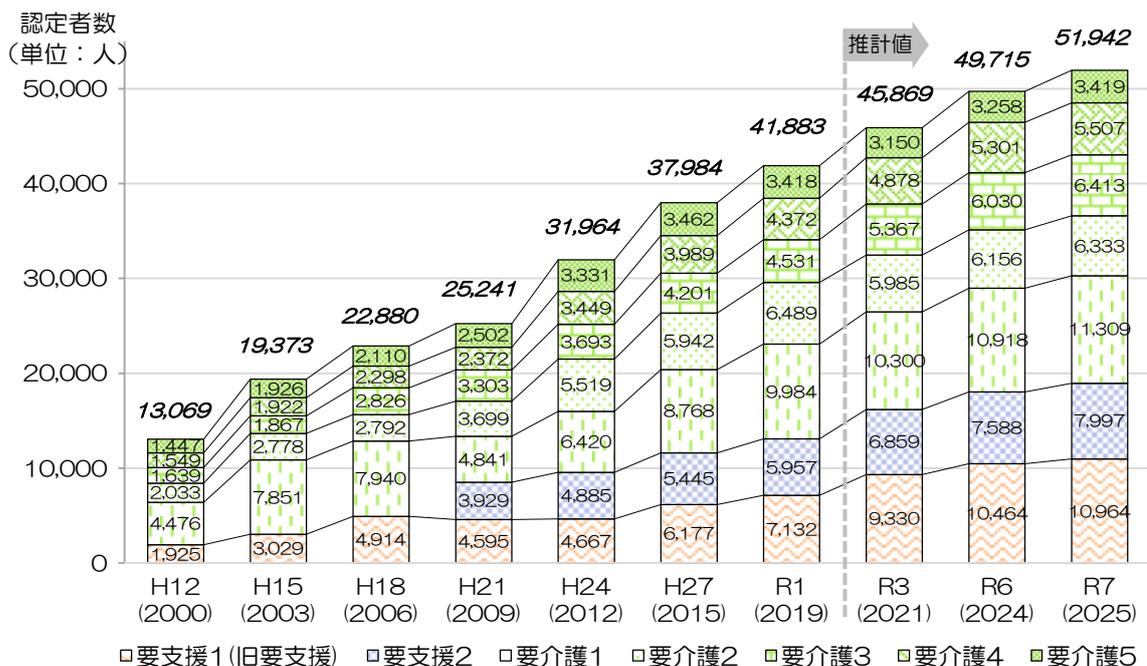


人口推移と将来推計

出典：国勢調査、令和2年以降は熊本市人口ビジョン（令和2年3月）

(2) 要介護認定者数の推移と将来推計

要介護認定者数については、制度開始当初の平成12年（2000年）から令和元年（2019年）にかけて約3.2倍に増加しており、今後も引き続き増加していく見込みとなっています。

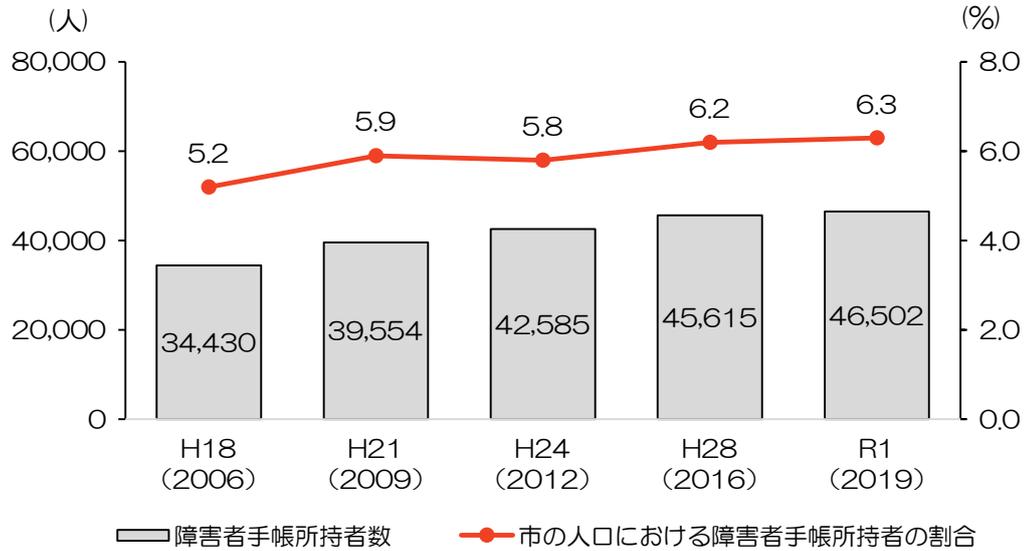


要介護認定者数の推移と将来推計

出典：第4次熊本市地域福祉計画・地域福地活動計画（令和2年3月）

(3) 障害者手帳保持者数と対人口比の推移

令和元年度（2019年度）末で、市民の6.3%が、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持している状況であり、所持者数は年々増加傾向にあります。



年度	H18 (2006)	H21 (2009)	H24 (2012)	H28 (2016)	R1 (2019)
身体障害者手帳	26,727	29,562	30,661	30,814	29,820
療育手帳	4,042	4,999	5,686	6,600	7,260
精神障害者保健福祉手帳	3,721	4,993	6,238	8,201	9,422
合計	34,430	39,554	42,585	45,615	46,502

障害者手帳保持者数と対人口比の推移

出典：第6期熊本市障がい福祉計画第2期熊本市障がい児福祉計画（令和3年3月）

3.2 バリアフリーに関する現状

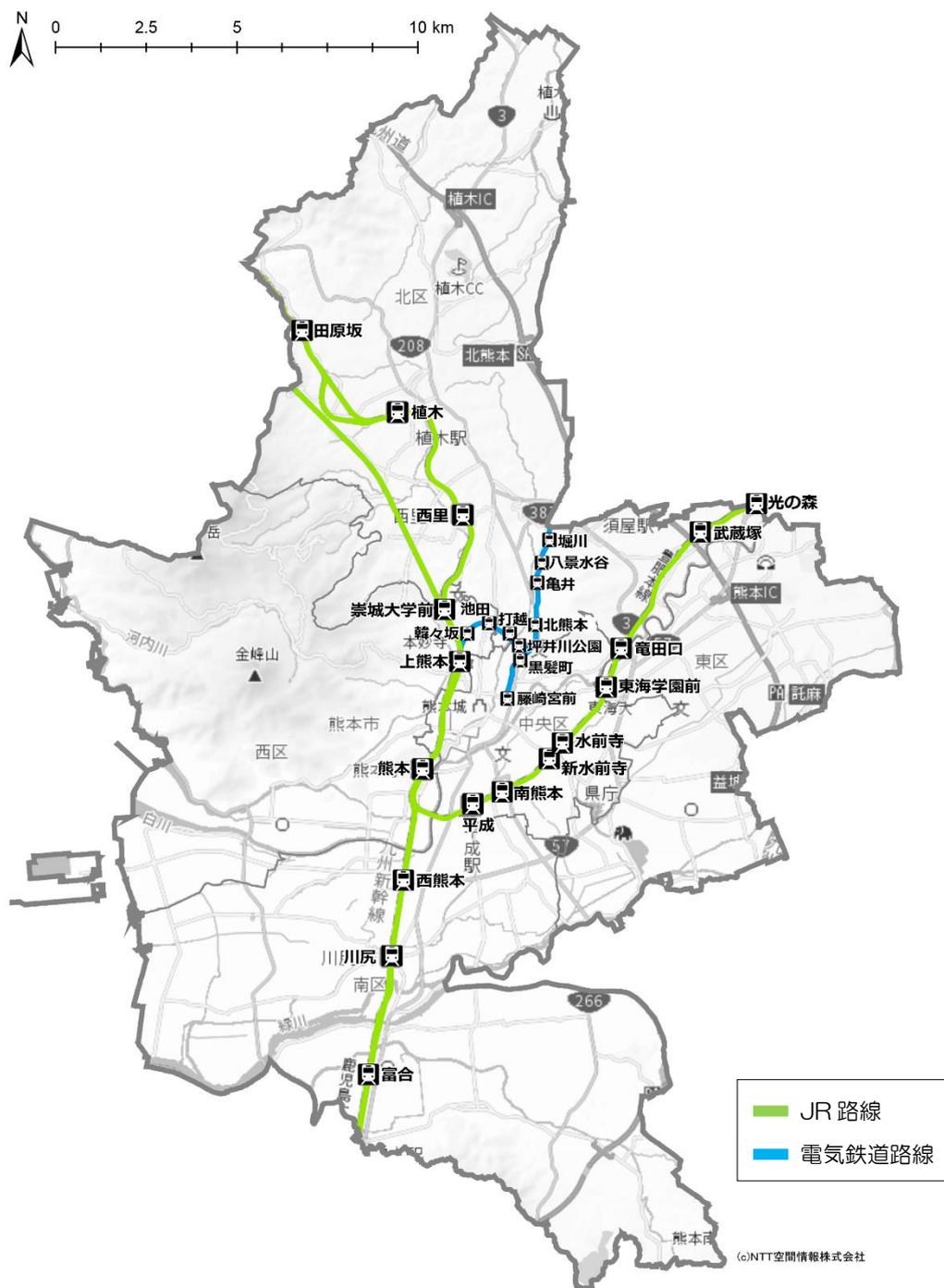
(1) バリアフリー化の取組事例等

1) 公共交通等

① 鉄道駅

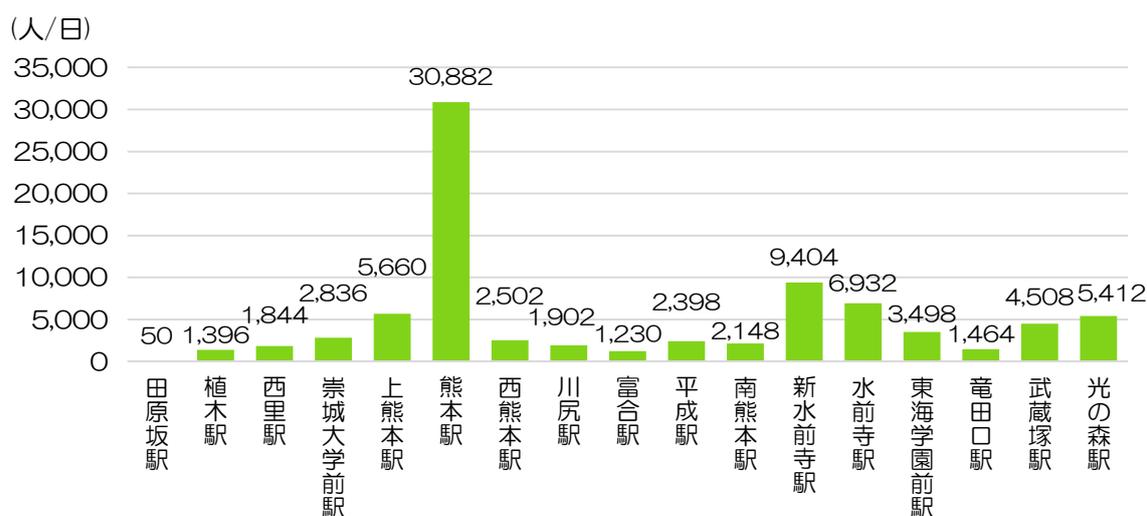
本市では、南北方向に JR 鹿児島本線、東西方向に JR 豊肥本線が通っており、市内には 17 駅が位置しています。

また、北東方面には隣接する合志市を結ぶ熊本電気鉄道が通っており、市内には 11 駅が位置しています。



熊本市鉄道路線図

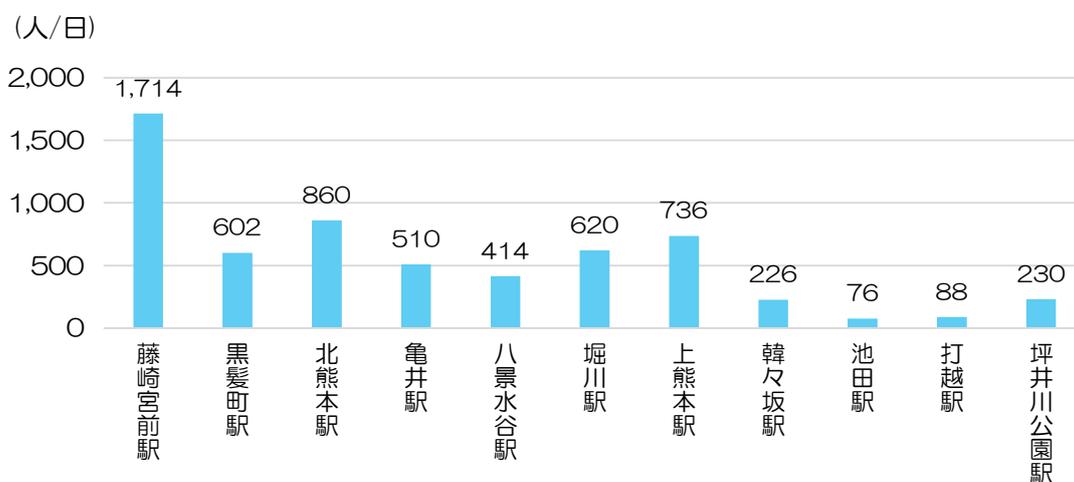
九州旅客鉄道については、令和元年度（2019年度）の日平均乗降客数は、熊本駅が3万人以上と最も多く、次いで新水前寺駅、水前寺駅となっています。



九州旅客鉄道：駅別日平均乗降客数（令和元年度）

※熊本地域公共交通計画（令和3年4月）を基に乗車人員を2倍にして算出

熊本電気鉄道については、令和元年度（2019年度）時点の日平均乗降客数は、藤崎宮前駅が最も多く、次いで北熊本駅、上熊本駅となっています。



熊本電気鉄道：駅別日平均乗降客数（令和元年度）

※熊本地域公共交通計画（令和3年4月）を基に乗車人員を2倍にして算出

バリアフリー法に基づく基本方針における次期目標において、鉄軌道駅については、日平均利用者数 3,000 人以上及び実施計画（移動等円滑化基本構想）の生活関連施設に位置付けられた日平均利用者数 2,000 人以上の施設は原則として全て、段差の解消、視覚障がい者の転落を防止するための設備の整備、運行情報提供設備その他の案内設備の設置等のバリアフリー化を行うこととされています。

本市の日平均利用者数が 3,000 人以上の駅においては、乗降客数が多い駅を中心にバリアフリー化が進められている状況となっています。

各駅のバリアフリー状況（日平均利用者数 3,000 人以上の駅）

駅名	段差解消	転落防止	視覚障害者誘導用ブロック	車椅子使用者用トイレ	障害者対応型券売機	幅広改札口	案内表示		
							運行情報(文字)	運行情報(音声)	施設案内(ピクト)
上熊本駅	○	○	○	○	○	○	○	○	○
熊本駅	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新水前寺駅	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水前寺駅	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東海学園前駅	×	○	×	×	×	×	×	○	×
武蔵塚駅	×	×	○	×	×	○	×	○	×
光の森駅	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：対応済み、×：未対応

② 電停

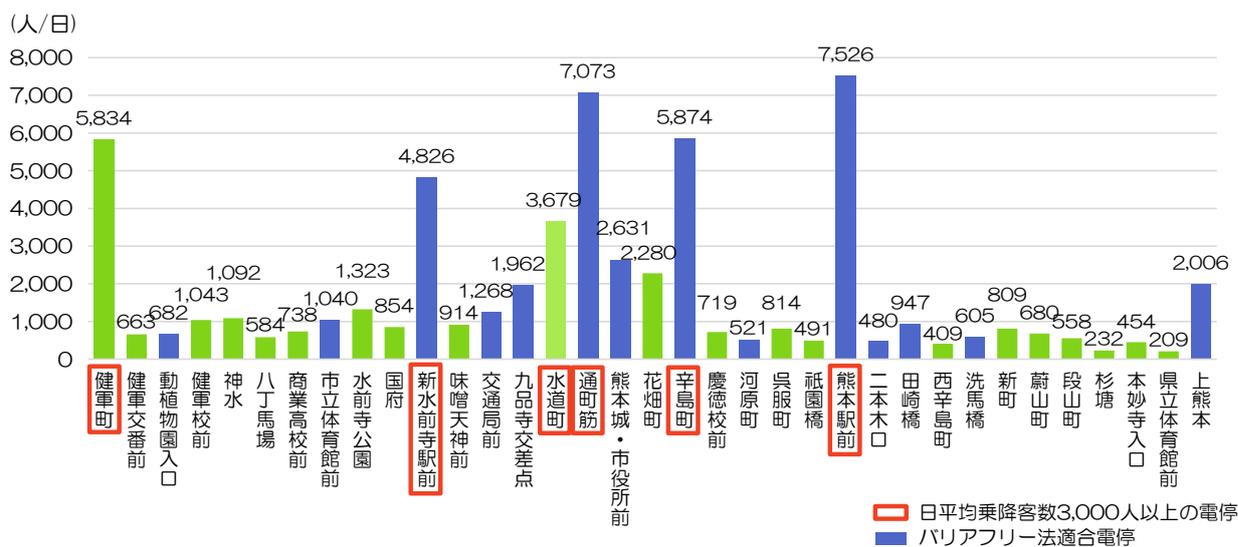
本市では、熊本駅周辺及び上熊本駅から健軍町を結ぶ熊本市電が通っており、市内には 35 箇所の電停が位置しています。

令和元年度（2019 年度）時点の日平均乗降客数は、熊本駅前電停が最も多く、次いで通町筋電停、辛島町電停となっています。



熊本市電路線図

出典：熊本市交通局ホームページ



電停別日平均乗降客数 (令和元年度)

出典：熊本市交通局経営計画（2021～2028）（令和3年3月）

電停については、これまでも整備方法や周辺条件、優先順位等を考慮したうえでバリアフリー化を着実に推進してきており、日平均乗降客数が3,000人以上でバリアフリー化の努力義務が課されている6電停（熊本駅前、通町筋、辛島町、健軍町、新水前寺駅前、水道町）のうち、4電停（熊本駅前、辛島町、通町筋、新水前寺駅前）がバリアフリー法に適合している電停となっています。また、バリアフリー法に適合していない2電停のうち健軍町電停は上りのみバリアフリー法に適合しており、水道町電停についても車椅子での乗降は可能な状況です。

なお、日平均乗降客数が3,000人未満の電停を含めると令和3年度（2021年度）末時点で全35電停のうち14電停がバリアフリー法に適合しています。

車両については、全45編成（54両）のうち、バリアフリー法に適合している車両は超低床車両8編成（16両）のみで、車両全体に占める割合は約30%に留まっています。

各電停のバリアフリー状況（日平均利用者数 3,000人以上の電停）

駅名	乗降場幅員 1.5m以上	段差解消	転落防止柵	上屋	ベンチ	視覚障害者誘 導用ブロック
健軍町	△	△	△	△	△	△
新水前寺駅前	○	○	○	○	○	○
水道町	×	△	△	○	×	△
通町筋	○	○	○	○	○	○
辛島町	○	○	○	○	○	○
熊本駅前	○	○	○	○	○	○

○：対応済み、△：一部対応済み、×：未対応



河原町電停（改良前後）



超低床車両「COCORO」



電停のバリアフリー化

出典：熊本市交通局経営計画（2021～2028）（令和3年3月）

③ バス

市内には、熊本都市バス、九州産交バス、産交バス、熊本電鉄バス、熊本バスの5事業者の路線バスが運行しています。

各バス事業者においてノンステップバスの導入が進められており、令和3年（2021年）4月時点におけるノンステップバスの導入率は、平均して約65%となっています。

ノンステップバス導入率（令和3年4月）

バス事業者	車両数	低床車数	導入率
都市バス	159	112	70.4%
九州産交※	189	107	56.6%
熊本電鉄	83	55	66.3%
熊本バス	84	62	73.8%
合計	515	336	65.2%

※九州産交の数値については、九州産交バス及び産交バスを合算した数値



熊本都市バス

④ タクシー

ユニバーサルデザインタクシーとは、高齢者、車椅子使用者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の方など、誰もが利用しやすいタクシー車両です。

熊本県内におけるユニバーサルデザインタクシーの導入状況は、全国ハイヤー・タクシー連合会の調査によると、令和2年(2020年)3月時点で57台(25事業者)となっています。

2) 建築物等

① 熊本城天守閣のバリアフリー化

熊本城においては、出入口等へのスロープの設置により天守閣までの段差解消を行うとともに、建物内にエレベーターを設置しました。また、階段においては2段手すりへの改修や、段差の明確化による転倒防止策等を実施しています。

さらに、多目的トイレの大天守内への設置や、触れる展示や多言語対応の展示解説等の導入により、誰もが利用しやすい空間づくりを進めています。



天守閣のバリアフリー化

② 市立小中学校のバリアフリー化

学校施設内は、多くの児童生徒が過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には一時避難所として不特定多数の方の利用が想定されることから、施設内の段差解消やトイレの洋式化及び車椅子使用者用トイレの整備等のバリアフリー化の取組を行っています。



スロープ



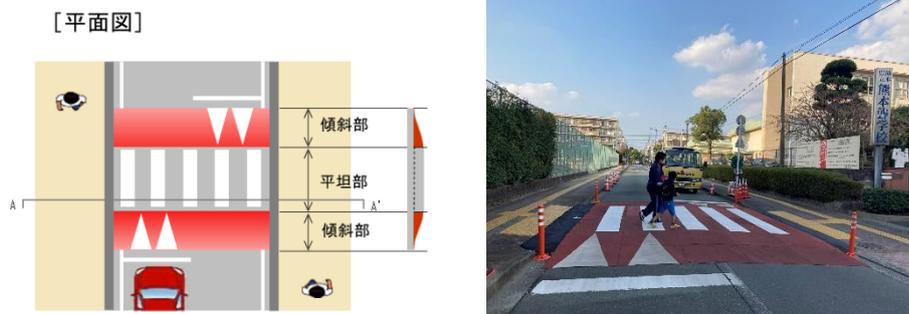
車椅子使用者用トイレ

3) 道路等

① スムーズ横断歩道の設置

人優先の安全・安心な通行空間の整備を目指し「スムーズ横断歩道」の設置を行っています。

「スムーズ横断歩道」とは、路面にハンプを設置することで歩道と横断歩道の段差を解消するもので、車両速度抑制や横断者の視認性向上による横断歩行者優先の遵守にもつながります。



スムーズ横断歩道の整備例

② 特定道路のバリアフリー化

特定道路とは、多数の高齢者、障がい者等の移動が通常徒歩で行われるものであって国土交通大臣がその路線及び区間を指定するものであり、熊本市内全 28.14km の特定道路のうち 27.21km (97%) において、視覚障害者誘導用ブロックの設置等のバリアフリー化整備が完了している状況です。



視覚障害者誘導用ブロックの整備状況

③ 放置自転車対策による歩行空間の確保

平成 24 年 (2012 年) から実施している「放置自転車ゼロ作戦」により、放置自転車が多い中心市街地や交通結節点周辺において、駐輪場への誘導案内、指導啓発、放置禁止区域の指定、放置自転車の撤去などの取組を行うことで、放置自転車の解消による快適な歩行空間の確保を行っています。

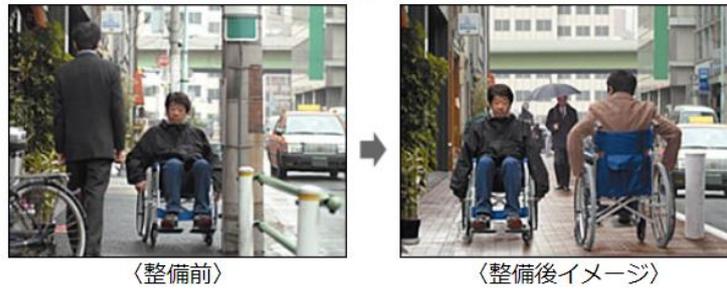


放置自転車対策のイメージ

④ 無電柱化による通行空間の確保

安全かつ円滑な交通の確保に向けて道路の無電柱化事業に取り組んでおり、熊本市無電柱化推進計画に基づいた整備を進め、歩行空間の確保を行っています。

電柱の撤去により幅の広い歩道を整備（イメージ）



歩行空間確保のイメージ

4) 都市公園

① インクルーシブ公園の整備

都市公園においては、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した整備を進めており、平成中央公園にて、障がいの有無等に関わらず子ども達と一緒に遊べる（インクルーシブな）遊具広場を整備しました。

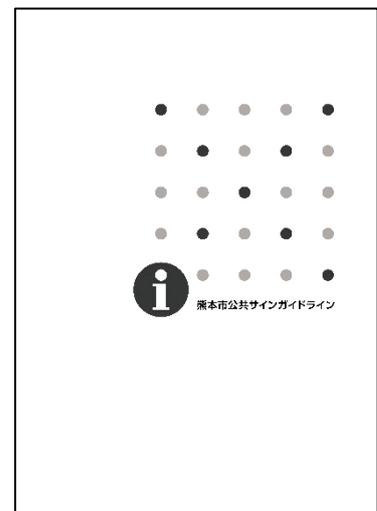


インクルーシブ遊具の整備例

5) 案内施設

① 公共サインガイドラインによるサインの視認性向上

「熊本市公共サインガイドライン」及び「熊本市屋外広告物ガイドライン」を策定し、高齢者、障がい者、外国人旅行者等、全ての人々が容易に理解できるよう、サインの設置位置や大きさ、あるいは文字の形や太さ、色彩等、あらゆる視認要素においてユニバーサルデザインに配慮することによるサインの視認性向上に取り組んでいます。

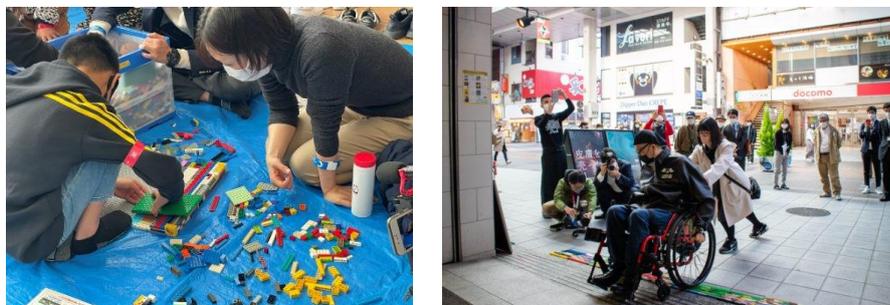


熊本市公共サインガイドライン

6) その他官民連携の取組

① MOBILE LEGO RAMP PROJECT

公民連携のまちづくり団体「WeDo くまもと」が主催し、スロープ制作実証実験を行いました。「MOBILE LEGO RAMP PROJECT」と称した実証実験はワークショップ形式で行い、LEGO ブロックを活用したスロープ制作及びまちなかでの体験会を実施しました。多くの方が参加し段差解消の重要性を改めて認識する機会となりました。



MOBILE LEGO RAMP PROJECT の様子

② 桜町地区市街地再開発事業

誰もが利用しやすい施設整備を目指して、桜町地区第一種市街地再開発事業の施行者である桜町再開発株式会社と熊本市が連携し、ユニバーサルデザイン意見交換会を実施しました。

バスターミナルや熊本城ホール等について、利用者の視点からいただいた様々なご意見を踏まえて、見やすくわかりやすい施設案内や使いやすいトイレ等の整備に配慮しました。



ユニバーサルデザイン意見交換会の様子

③ 熊本駅周辺整備事業

熊本駅周辺整備事業においては、旧基本構想に基づき九州旅客鉄道株やバス会社等の公共交通事業者等と連携し、熊本駅周辺地区の施設及び経路に関する一体的なバリアフリー化を図りました。



熊本駅前広場の整備状況

(2) アンケート調査

1) 実施概要

バリアフリーに関する意識やご要望、施設の利用状況などを把握するため、アンケート調査を実施しました。調査の概要は以下のとおりです。

アンケート調査の概要

対 象	熊本市在住の高齢者や障がいのある方、子育て世帯などを中心に 2,000 人
時 期	令和 3 年 (2021 年) 12 月 26 日 ~ 令和 4 年 (2022 年) 1 月 17 日
回 収 数	709 票 (うち郵送回答 519 票、WEB 回答 190 票)
調査項目	ご自身のことについて/バリアフリーに関する市民意識について/市内での移動手段や利用する施設について/市内のバリアフリーに関する課題について/災害時のバリアフリーの課題について

2) 結果概要

以下に主な結果を示します。

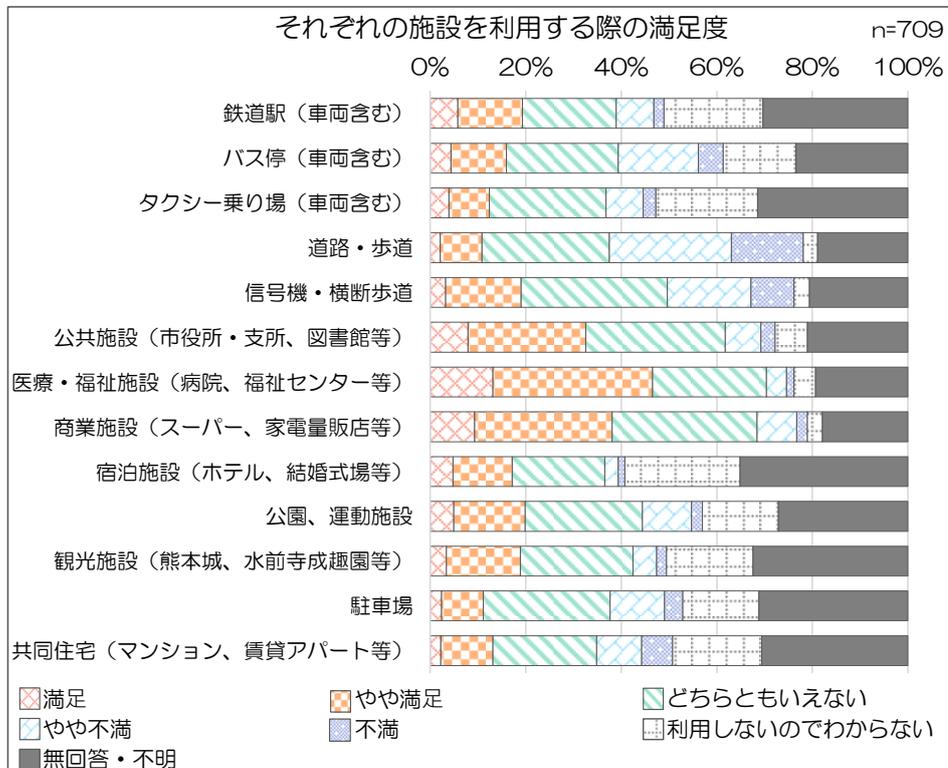
アンケート結果概要 (1/2)

<p>バリアフリーに関する市民意識について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障がいがある方や高齢者の方、妊婦の方の移動に対して、手助けや席を譲る等のサポートを行ったことがある市民の割合は約7割となっている。 心のバリアフリーについては、「よく知っている」が約1割、「聞いたことはある」が約4割、「知らない」が約5割となっている。 <div data-bbox="475 1061 1426 1261"> <p style="text-align: center;">心のバリアフリーの認知状況</p> <table border="1"> <caption>心のバリアフリーの認知状況</caption> <thead> <tr> <th>認知状況</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よく知っている</td> <td>12.0%</td> </tr> <tr> <td>聞いたことはある</td> <td>38.6%</td> </tr> <tr> <td>知らない</td> <td>49.1%</td> </tr> <tr> <td>無回答・不明</td> <td>0.3%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向けた市の啓発活動に関する所感については、「十分取り組んでいる」及び「どちらかといえば十分取り組んでいる」が合わせて約2割、「どちらかといえば不十分である」及び「不十分である」が合わせて約4割となっている。 障がいがある方や高齢者の方、妊婦の方等に対する偏見、不当な取扱い等については、「偏見を感じない」、「感じる時もあるが、改善されてきている」が約7割となっている。 	認知状況	割合	よく知っている	12.0%	聞いたことはある	38.6%	知らない	49.1%	無回答・不明	0.3%						
認知状況	割合																
よく知っている	12.0%																
聞いたことはある	38.6%																
知らない	49.1%																
無回答・不明	0.3%																
<p>市内での移動手段や利用する施設について</p>	<ul style="list-style-type: none"> よく利用する施設は、商業施設（スーパー等）が特に多く、次いで医療・福祉施設（病院等）、公共施設が多くなっている。 <div data-bbox="475 1666 1426 1980"> <p style="text-align: center;">よく利用する施設</p> <table border="1"> <caption>よく利用する施設</caption> <thead> <tr> <th>施設の種類</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>商業施設（スーパー、家電量販店等）</td> <td>78.8%</td> </tr> <tr> <td>医療・福祉施設（病院、福祉センター等）</td> <td>60.8%</td> </tr> <tr> <td>公共施設（市役所・支所、図書館等）</td> <td>54.4%</td> </tr> <tr> <td>公園・運動施設</td> <td>39.9%</td> </tr> <tr> <td>観光施設（熊本城、水前寺成趣園等）</td> <td>21.6%</td> </tr> <tr> <td>その他（駐車場 等）</td> <td>18.1%</td> </tr> <tr> <td>旅客施設（駅・バス停等）</td> <td>15.9%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> よく利用する施設の配置をみると、中心市街地（通町筋電停周辺）が特に多く、次いで水前寺・九品寺地区、健軍地区となっている。 	施設の種類	割合	商業施設（スーパー、家電量販店等）	78.8%	医療・福祉施設（病院、福祉センター等）	60.8%	公共施設（市役所・支所、図書館等）	54.4%	公園・運動施設	39.9%	観光施設（熊本城、水前寺成趣園等）	21.6%	その他（駐車場 等）	18.1%	旅客施設（駅・バス停等）	15.9%
施設の種類	割合																
商業施設（スーパー、家電量販店等）	78.8%																
医療・福祉施設（病院、福祉センター等）	60.8%																
公共施設（市役所・支所、図書館等）	54.4%																
公園・運動施設	39.9%																
観光施設（熊本城、水前寺成趣園等）	21.6%																
その他（駐車場 等）	18.1%																
旅客施設（駅・バス停等）	15.9%																

アンケート結果概要 (2/2)

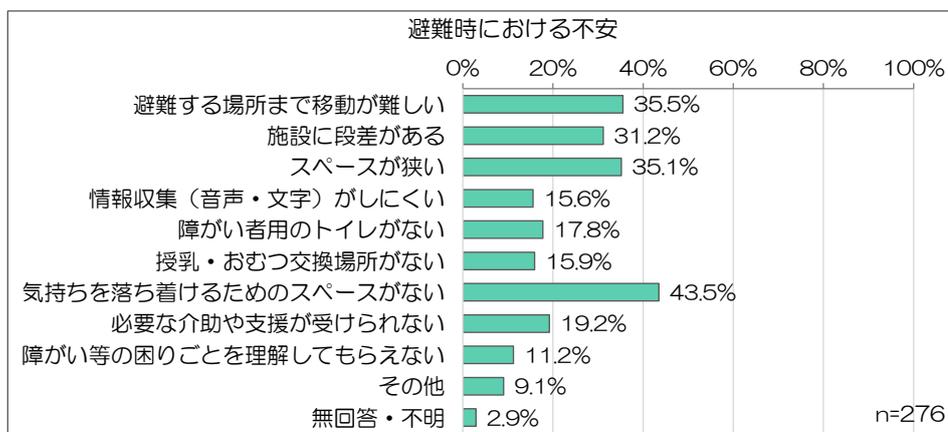
市内の
バリアフリーに
関する満足度について

- 施設種別のバリアフリーに関する満足度について、医療・福祉施設や商業施設、公共施設などの建築物については「満足」、「やや満足」の割合が高くなっている。一方、公共交通機関（バス停）、道路・歩道、信号機・横断歩道などの歩行環境については「やや不満」、「不満」の割合が「満足」、「やや満足」の割合を上回っている。



災害時の
バリアフリーに
ついて

- 災害時の避難場所の認知状況は、「知っている」が約8割と高くなっており、市民意識の高さがうかがえる。
- 避難時のバリアフリー上の不安があると回答した方の不安の内容は、「気持ちを落ち着けるためのスペースがない」が最も多くなっており、次いで「避難する場所まで移動が難しい」、「スペースが狭い」、「施設に段差がある」となっている。



(3) まちあるきワークショップ

1) 実施概要

バリアフリーにおける機運醸成や課題の共有を図るとともに、施設ごとのバリアやそれぞれの視点での感じ方について確認するため、まちあるきワークショップを実施しました。

障がいがある方等による確認はもとより、資機材（車椅子、アイマスク、ベビーカー等）を用いて様々な立場での利用を疑似体験しながら、普段は気づかないまちの中でのバリアを見つけました。

まちあるきワークショップの概要

	中心市街地地区	水前寺・九品寺地区	健軍地区
日程	<ul style="list-style-type: none"> ・まちあるき（第1回） ：令和4年3月22日 ～令和4年3月24日 ・ワークショップ（第1回） ：令和4年3月29日 ・まちあるき ワークショップ（第2回） ：令和4年11月7日 ・まちあるき ワークショップ（第3回） ：令和5年3月18日 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちあるき ワークショップ ：令和4年7月22日 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちあるき ワークショップ ：令和4年7月29日
参加者	第1回：熊本市在住の障がい当事者、子育て世代の方など 第2回：子育て世代の方、外国人、道路管理者など 第3回：熊本市在住の障がい当事者、子育て世代の方、道路管理者など	熊本市在住の障がい当事者、子育て世代の方など	熊本市在住の障がい当事者、子育て世代の方など
点検ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・桜町～新市街周辺 ・通町～上通・下通周辺 ・熊本城～市役所周辺 	<ul style="list-style-type: none"> ・九品寺交差点周辺 ・熊本市保健福祉センター周辺 	<ul style="list-style-type: none"> ・健軍文化ホール～ピアクレス周辺 ・健軍町電停周辺
当日の様子			

※感染症拡大防止の観点から、少人数に分かれてまちあるきを行い、中心市街地地区の第1回のワークショップは後日対面とオンライン形式の併用で実施しました。

2) 結果概要

ワークショップでは、まちあるきで感じた良い点や改善点を共有するとともに、今後進めていきたい取組のアイデアをいただきました。具体的な指摘箇所については次頁以降に示します。

参加者意見の概要

◎良い点 △改善点		視覚障がい	身体障がい (車椅子)	子連れ (ベビーカー)	聴覚障がい	知的障がい	外国人
道路	歩道	△アーケード内に視覚障害者誘導用ブロックがない。 【写真①】	△車両侵入部の横断勾配が大きい。 【写真②】	△柔らかい素材の歩道はベビーカーを押しにくい。		△歩道は二人横に並んでもすれ違えるほどの幅があるとよい。	
	舗装	△グレーチングやブロックの隙間に白杖が引っかかる。	△タイルの欠けや割れが多く、車椅子ががたがたする。 【写真③】	△タイルなどに大きな段差があると、ベビーカーを押しにくい。 【写真③】			
	交差点 (横断歩道・信号機)	△雨の日だと信号の音が聞きにくい。	△歩行者用信号の青時間が短い。	△市電の軌道にベビーカーが引っかかる。 【写真④】		△大きな交差点では自転車がスピードを出しており危険。	
建築物	トイレ	△トイレに音声案内がない。	△ドアの開閉が手動である。	△乳幼児用設備は、男女トイレ両方にあるとよい。	△個室に災害発生お知らせの緊急ランプがない。	△異性介助できるトイレがあるとよい。	△英語表記が統一されていない。
旅客施設	電停		△スロープ付きの車両が何時に来るかわからない。		◎車両到着等を知らせるランプはわかりやすい。 【写真⑤】	△電光掲示板は情報をゆっくり表示させるとよい。	
	バス停 ・バスターミナル	◎バスの運転手が声掛けをしてくれる。	△時刻表の文字が小さい。 【写真⑥】	◎屋根とベンチがある。	◎デジタルの案内板がある。	△バスの行先表示が数字やアルファベットでわかりにくい。	△乗場はスマホで調べてようやく理解できる。



①アーケード



②車両侵入部の勾配



③タイルのがたつき



④市電の軌道



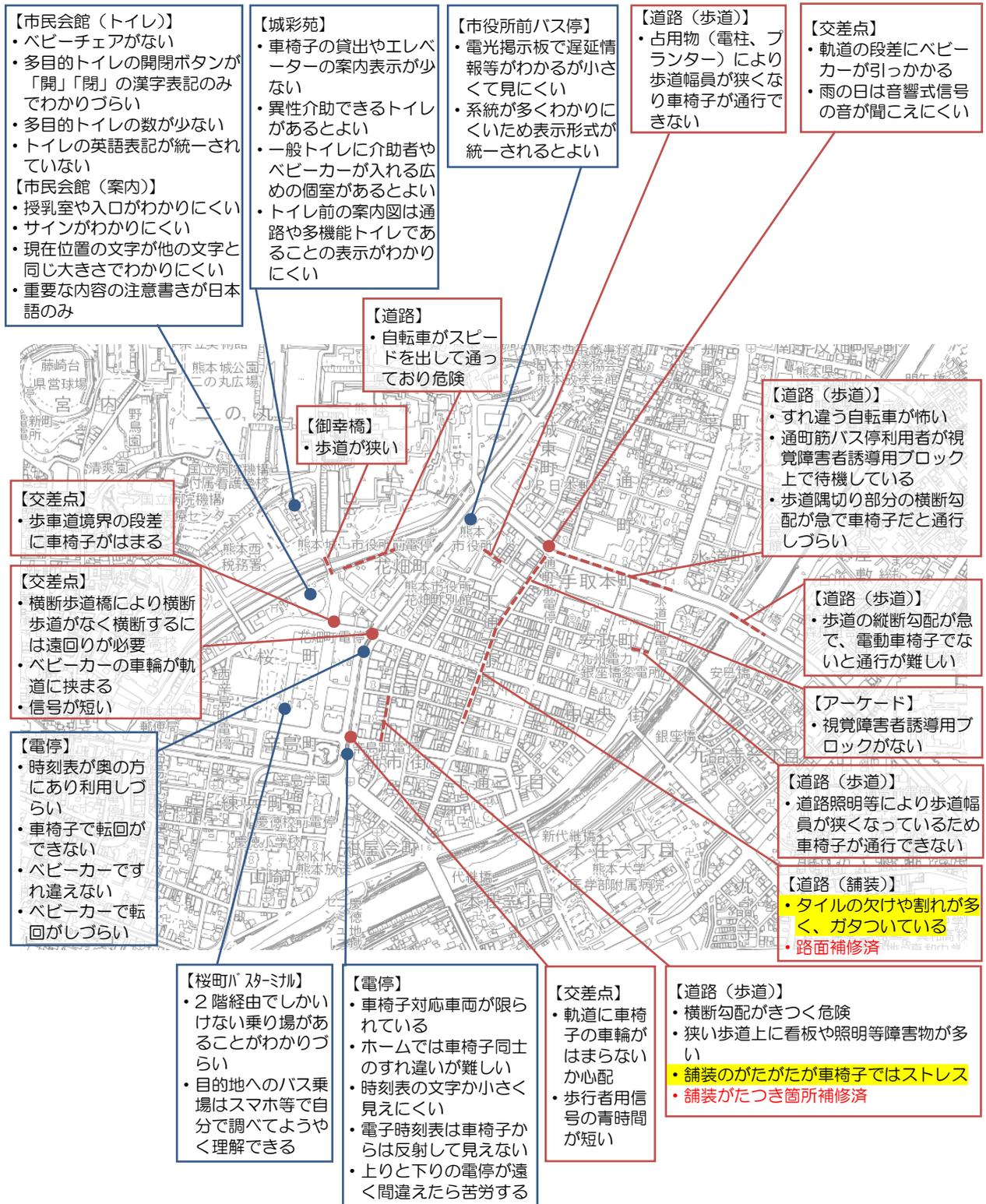
⑤電停のランプ



⑥バス停の時刻表

① 中心市街地地区

【第1回・第2回】



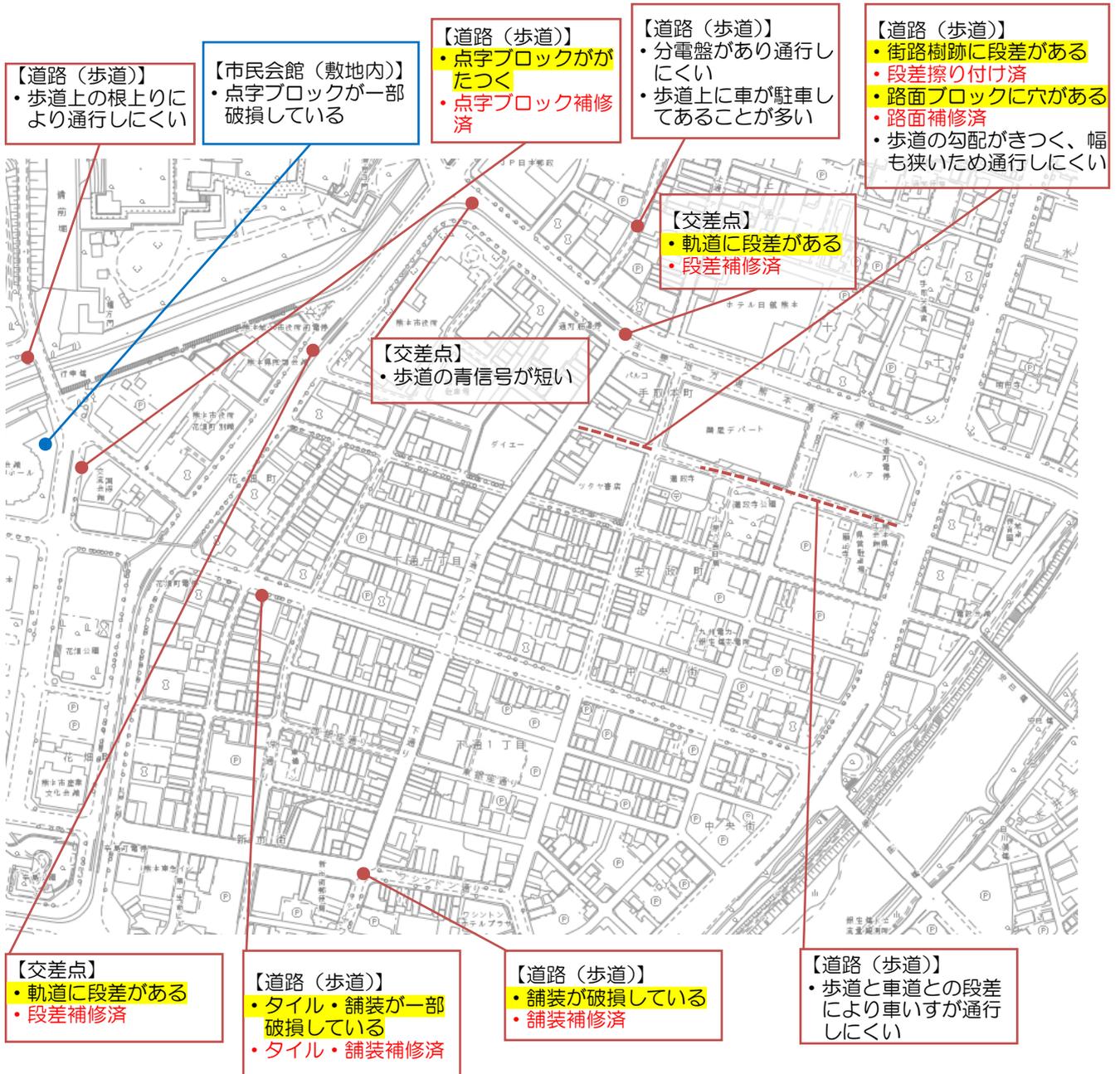
※青枠：施設関係、赤枠：道路関係

【第3回】



※青枠：施設関係、赤枠：道路関係

【第4回】



② 水前寺・九品寺地区



※青枠：施設関係、赤枠：道路関係

③ 健軍地区



※青枠：施設関係、赤枠：道路関係

3.3 バリアフリーに関する課題

前段で整理した本市の現状や市民意見等を踏まえ、本市のバリアフリーに関する主な課題を以下のとおり整理しました。

バリアフリーに関する主な課題

バリアフリーに関する主な課題	
<p>各施設における バリアフリー化</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 障がいのある方は自動車での移動が多いものの、中心市街地や地域拠点への貴重な移動手段である公共交通のバリアフリー化が必要である。 • 建築物のバリアフリー状況に対しては満足度が高い傾向にあるものの、トイレや駐車場に対する指摘が多くあり、各施設において<u>バリアフリートイレや障がい者用駐車場の整備を推進していく必要がある。</u> • 道路においては、視覚障害者誘導用ブロックや舗装の維持管理に対する指摘が多くあることから、さらなるバリアフリー化の推進に加え、<u>既存施設の適切な維持管理が必要である。</u> • 青時間が短く渡り切れない信号機や、横断歩道表示の劣化など、交通安全上の指摘が多くあり、<u>交通管理者と連携を深めた交通安全対策に取り組む必要がある。</u> • 避難時においては、落ちつけるスペースがないことや移動が難しいことへの不安が多く、<u>避難所の利用環境やサポートの充実を図る必要がある。</u> • 仮設住宅については、<u>車椅子使用者や高齢者の入居を想定したバリアフリー対応型のものを一定数確保できる取組を推進していく必要がある。</u>
<p>心のバリアフリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 市民アンケートによると、障がい者等に対し手助けや席を譲るなどのサポートを行ったことがある方の割合は約7割である一方、「心のバリアフリー」をよく知っている方の割合は約1割となっているため、<u>心のバリアフリーの概念と結び付けたうえで啓発事業等の取組を推進し、誰もが自然に支え合えるよう相互理解を深めていく必要がある。</u>